

令和元年度 学校評価(自己評価)シート (武蔵野星城高等学校)

目指す学校像	創立17年を経過した本校では、グローバルにもローカルにも活躍できる生徒の育成を図るため、教員一人一人の指導力・実践力をさらに高めるとともに、学校全体としての指導体制の強化・充実を図る。また、本年度から取り組む朝読書を軌道に乗せ、全生徒の読解力と集中力の向上を図る。また、単位制による通信制、登校型を採用する通信制高校として、その特色・魅力を最大限に生かした教育活動を展開し、生徒の伸びしろを引き出し、高い成果を上げる。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒を自走させるための伴走のあり方を工夫・研究する。また、本年度からの朝読書を軌道にのせる。</li> <li>2 次代を担う人材育成を目指し、グローバルにもローカルにも活躍できる人間を育成する。</li> <li>3 生徒の多様な進路希望の把握に努め、その実現を図るため、きめ細やかな指導を実践する。</li> <li>4 環境美化や安全、健康等に対する生徒の意識を啓発し、災害発生時にそなえた知識と行動力を身につける。</li> <li>5 一般コース・Cコースの教育活動内容をより良いものにするためにスクーリングの内容を充実させる。</li> <li>6 学校内外での研修機会を増やし、外部への研究に参加しやすい環境を構築し、教職員の質的向上を図る。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(概ね8割以上)
	B	概ね達成(概ね7割)
	C	変化の兆し(概ね6割)
	D	不十分(概ね5割以下)

学校自己評価

年度目標		年度評価(3月30日現在)				
重点目標	評価項目	具体的方策	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒を自走させるためのあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員による一方的な指導だけでなく、生徒の自主性を尊重する指導を実践する。</li> <li>○ 教員は、生徒の見守り役に徹し、生徒の主体性を育むよう指導を工夫する。また、必要に応じて助言などを行う。</li> </ul>	<p>授業・部活動・学校行事のなかで、その実践が図られたかどうか。</p> <p>生徒に対し、すぐに指導をするのではなく、見守り役に徹することができたかどうか。</p>	<p>教員のなかで意識が芽生える成果がみられた。しかし、全教員のコンセンサスや実践には至らなかった。</p> <p>多くの教員が生徒に対して、我慢強く見守ろうとする姿勢はみられた。</p>	A	<p>昨年度の反省をふまえ、全教員の意思統一を図る。また、継続的に実践できるよう根気強さを発揮するよう努める。</p> <p>引き続き、見守り役に徹していくと同時に、より良い助言ができるよう努める。</p>
	朝読書の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定着を図るため、全生徒が集中できる環境作りを行う。</li> <li>○ 朝読書を通じて、生徒が読書の魅力を理解することで自発的に読書ができるよう指導を行う。</li> <li>○ 朝読書を継続することで、読書が生徒にとって習慣化されるようする。</li> </ul>	<p>必要な書籍を準備したり、落ち着いた読書に集中できる雰囲気作りができたかどうか。</p> <p>朝読書以外の時間でも読書する生徒が多く見受けられるようになったか。</p> <p>読書という行為が生徒の生活習慣のなかでどの程度根付いたか。</p>	<p>教室内の書庫の充実が図られ、多くの生徒が読書に集中できる環境ができていた。</p> <p>少数ではあるが、休み時間や放課後などの時間に自発的に読書に励む姿が見受けられた。</p> <p>生徒への聞き取りによると、以前と比較して読書が習慣化したという声が一定数確認できた。</p>	A B B	
2	グローバルに活躍できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英会話などの授業を通して、コミュニケーション能力を向上させる。</li> <li>○ キャッパ高校との交流を通じて、異文化理解を深め、国際人としての素養を身につける。</li> </ul>	<p>生徒の英会話能力向上を達成し、コミュニケーションに生かすことができたかどうか。</p> <p>生徒の異文化理解が深まることで、国際人としての自覚が芽生えたかどうか。</p>	<p>教員は生徒の興味・関心を伸ばそうと懸命に努力したが、全ての生徒のコミュニケーション能力向上には至らなかった。</p> <p>修学旅行に参加した生徒は、一定の異文化理解ができたことで国際人としての自覚が芽生えた。</p>	C B	<p>より、生徒が興味・関心を持てるような授業作りを実践し、基礎学力の向上とともに、コミュニケーション能力向上に努める。</p> <p>事前指導をより充実させることで異文化理解を深められるようにする。</p>
	ローカルにも活躍できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「体験的な学習の時間」を活用して、授業では得がたい知識を身につける。</li> <li>○ 学校近隣で実施されるイベントや行事などに参加することができる。</li> </ul>	<p>「体験的な学習の時間」を通じて生徒の意識や言動に前向きな変化が見られたかどうか。</p> <p>地域社会との接点を結ぶことができたかどうか。</p>	<p>「体験的な学習の時間」に意欲的に取り組む生徒も多く見られたが、運営方法などに課題が残った。</p> <p>部分的には参加できていたが、結果としてまだ不十分であった。</p>	B B	
3	生徒の多様な進路希望の実現を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路希望調査や三者面談の機会を活用して、生徒の進路希望の状況を正確に把握する。</li> <li>○ 進路意識が高い生徒に、そのニーズに応える指導を行う。</li> <li>○ 進路ログ・ホームルームの内容を再検討し、より多様な進路指導に対応できる方策を行った。</li> </ul>	<p>様々な機会を通じて、正確な生徒の進路希望状況を把握できたかどうか。</p> <p>ドルフィン教室の利用を促したり、必要に応じた指導を実施できたかどうか。</p> <p>進路ログ・ホームルームのテキストや内容の精査を行い、より生徒のニーズにあったものにできたかどうか。</p>	<p>生徒の進路希望の状況については、おおむね把握することができた。</p> <p>進路意識の高い生徒が放課後の時間にドルフィン教室を利用することができた。しかし、学年によって利用率にばらつきが生じた。</p> <p>進路ログ・ホームルームの内容やテキストなどの大幅な変更はなされなかったが、各担当者の創意工夫によって生徒のニーズにはある程度応えることができていた。</p>	A A A	<p>今後も、継続的に実施する。</p> <p>ドルフィン教室の開放日を増やしたり、必要な教材を準備するなどの環境整備を進める。</p> <p>多様化する入試制度に対応するべく、情報収集を徹底し、生徒の進路実現に努める。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常の清掃指導を徹底し、その適切な方法や重要性の指導を行う。</li> <li>○ 安全や健康に対して、正しく立案できるような行事の立案を行う。</li> </ul>	<p>清掃について正しい理解がなされ、日々清掃が徹底されていたかどうか。</p> <p>十分な準備や検討を行った上で行事を立案できたかどうか。</p>	<p>多くの生徒がその重要性や方法を理解し、日々実践されていた。</p> <p>行事は実施されたが、十分な検討がなされていない点もあり、改善の余地があった。</p>	B B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災訓練の内容を再検討し、より効果的な訓練ができるよう方策を講じる。</li> <li>○ 防災訓練時に、より緊張感をもって望めるよう事前指導を徹底する。</li> </ul>	<p>防災訓練の内容が、前年度の反省をふまえた形で検討されたかどうか。</p> <p>ホームルームなどの時間を活用し、真剣に訓練に取り組むことの重要性を指導できたか。</p>	<p>検討はされたが、結果として大きな変更のない状態で訓練が実施された。</p> <p>全生徒への周知徹底には至らなかった。</p>	B B	
5	一般コース・Cコースの教育内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スクーリングの時間に授業形式を導入し、学習効果の向上を図る。</li> <li>○ 学校行事や部活動への参加機会が増えるような策を講じる。</li> </ul>	<p>授業形式を導入したことで、生徒の理解を深めることができたかどうか。</p> <p>学校行事や部活動に参加しやすくなるような環境作りができたかどうか。</p>	<p>多くの生徒が真剣かつ意欲的に取り組んでおり、一定の効果が見られた。</p> <p>学校行事や部活動参加への呼びかけは行われていたが、具体的な方策は講じられなかった。</p>	A C	<p>引き続き実践し、さらに学習効果が向上するよう努める。</p> <p>オリエンテーションやロングホームルームの時間の有効活用を図ることで、参加機会が増えるようにする。</p>
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校内のあらゆる問題の原因究明を行うとともに、研修会で学んだことを活かす。</li> <li>○ 必要と思われる外部研修へ参加するためのサポートを行う。</li> </ul>	<p>問題の原因究明と研修会が連動し、その効果が得られたかどうか。</p> <p>教員が参加したいと考える研修会に参加できる体制やフォローがあったかどうか。</p>	<p>問題発生時の原因究明がなされた上で、その対策として研修会がすみやかに実施された。</p> <p>参加を実現するためのサポートは行われていたが、全てのニーズに応えることはできなかった。</p>	B B	<p>引き続き迅速な対応を行い、より良い学校作りに活かすことができるようにする。</p> <p>本年度も引き続きサポートを継続する。</p>